

# きになる梨情報



第21号 平成18年9月20日 土浦地域農業改良普及センター発行  
Tel: 029-822-8517

## ナシ黒星病の秋期防除について

今年はナシの黒星病が多く発生しました。翌年への伝染源を減らすために秋期防除を徹底してください。

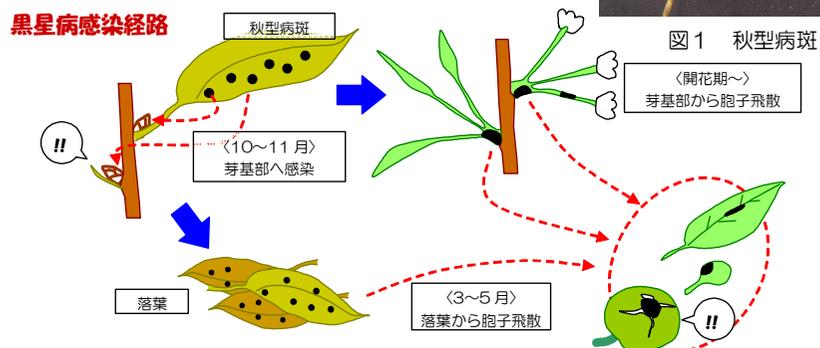
### ○被害の様子

りん片、葉、葉柄、果実などに黒色すす状の病斑を生じ、落葉、落果、裂果を引き起こす黒星病は、夏から秋にかけて葉裏に薄い墨を流したような黒色の病斑（秋型病斑）を生じます。

秋型病斑を生じた葉は、落葉し翌年の伝染源となります。また10～11月にはりん片へ感染し、これもまた翌年の伝染源となります。



図1 秋型病斑



## 次年度に向けた黒星病対策

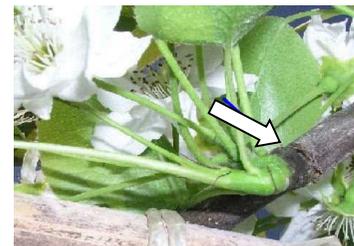
### ○防除のポイント

#### 【伝染源の除去】

- 園内にある落葉を集めて土中に埋めることにより、園内の病原菌の密度を下げることができます。（この作業が出来ない場合には、ロータリをかけて、落葉をすき込むだけでも効果があります）

#### 【薬剤による防除】

- 防除適期は、収穫終了後～秋季（9月中旬～11月上旬）です。
- 薬剤散布量は、10a当たり300リットルを目安に十分な量を丁寧に散布し、かけむらのないように努めましょう。
- せっかくの散布作業が無駄にならないよう、散布量やSSの走行方向・速度を工夫して、かけむらの無いようにしましょう。
- 薬液のかからない場所が無くなるよう、剪定・誘引時には枝同士が重ならないようにしましょう。
- 農薬は登録の確認とともに、周辺の作物に薬液が飛散しないよう十分注意して散布しましょう。



花そう基部の病



葉柄に発病した病斑



黒星病による裂



葉に発病した秋型病斑

みんなで進めよう  
茨城農業改革

# きになる梨情報



第22号 平成18年9月20日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8517

## ナシ園の樹勢を回復する土づくり

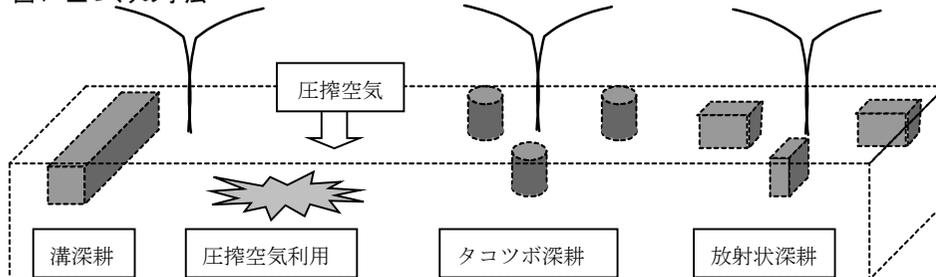
### ナシ園の土づくり

ナシ園の土壌はスピードプレーヤーなどの重量大型機械の走行で硬くなったり（物理性悪化）、降雨で石灰分が流亡し、酸性が強くなる（化学性悪化）など徐々に悪化していきます。これら根の生育を悪化させてしまう要因を診断し、取り除くことが土づくりです。（表1～2、図1～2）を参考に10月下旬～11月頃に行うようにしましょう。

表1 土壌改良基準と対策

主な診断項目	改良基準値	対策
土壌硬度	20mm以下（山中式硬度計）	深耕、圧搾空気（グロースカソ）、堆肥施用
地下水位	100cm以下	暗渠や明渠の施工、高畝
酸度(pH)	5.5～6.0	石灰、苦土の施用
リン酸	10mg/100g乾土	リン酸資材の施用

図1 土づくりの手法



みんなで進めよう  
茨城農業改革

表2 各種土づくり(土層改良)方法の特徴

深耕の種類	長所	短所	留意点
トレンチャーによる深耕	溝深耕により、下層まで土壌改良が可能。	施用する有機物の確保や埋め戻し労力がかかる。	樹幹近くは深耕しない。計画的施行が必要。
圧搾空気(グロースカソ)利用による土壌改良	圧搾空気の土壌注入と同時に土壌改良資材を注入できる。排水対策をかねる。	下層へのたい肥等の有機物施用ができない。毎年施行することが望ましい。	他の深耕を併用すると効果が高い。
タコツボ式深耕(コイル式深耕機、ホールディガーなど)	断根を最小限に抑え、根域付近を直接改良できる。	部分深耕なので全体改良に年数がかかる。	たい肥等の土壌改良資材と一緒に埋め戻す。計画的施行が必要。

図2 ホールディガー

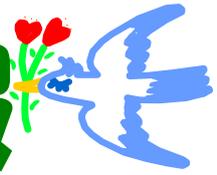


### 元肥（土づくりと併せても良い）

株元への局所施肥（ドーナツ施肥、株元施肥）とし、有機物等を併せて施用する。

施用量は、元肥で チッソ 10kg、リン酸 16kg、カリ 16kg を基準とするが、土壌診断でカリが多い場合はカリ分の少ない肥料を施用する。

# きになる梨情報



第23号 平成19年3月15日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8517

## ナシの開花予報と今後の管理

### ○ナシの開花予報○

昨年12月以降例年になく暖冬で気温が高い状態が続いています。気象庁の3ヶ月予報では3～5月も平年より高いと予想されており、これからの気象が、暖冬により過去最速の開花であった平成14年と同様に経過するとした場合、開花期は下記のとおり予想されます。

幸水満開日	土浦、霞ヶ浦、新治	4月14日ころ
	千代田、石岡、	4月16日ころ
	八郷	4月18日ころ

(昨年より3～5日早い見込み)

### ○晩霜・降雪などの気象災害対策○

今年はナシの開花が平年より早まることが予想され、晩霜害の発生が心配されます。また、昨年は4/21、26に降雪により、大きな被害を被りました。これらの被害に対しては、準備を十分に行い災害に負けない梨づくりを目指しましょう。

#### 【晩霜の恐れのある気候】

- 2、3日前に雨が降り、日中は肌寒い北風が強く吹き、日中の気温があまり上がらず最高気温が18℃以下のとき
- 日中冷たい北風が吹いていたのが夕方になっておさまり晴れたとき
- 日中風が弱く、空気が乾燥し夜に入って冷え冷えと肌寒いとき
- 夜空が晴れコバルト色に澄み渡り、星がきらきらと輝くとき

#### 【晩霜予測の方法】

- 18時の気温が7～8℃
- 21時の気温が4～5℃

このような気温の下降状況では日の出まで、平均して0.8～1.0℃の割合で低下し、翌朝、日の出までに-1～-2℃になる可能性が高い。

#### 【霜の降りやすい日や地形など】

- 霜は3℃で確実にあり、4℃でも危険
- 風の吹き溜まりになるような冷気の溜まりやすい窪地や冷気の通り道
- 地面に近いほど気温が低く、晴れた無風の夜や敷き藁、草生園は危ない
- 敷き藁マルチは地温の上昇を妨げるため、霜害の危険性がなくなるまで敷くのを控える。雑草の草丈が高い場合も同様のため、短く刈り込むようにする。

**【生育ステージ別に見た霜害を受ける危険温度(遭遇時間 30 分以上)】**

A	未着色の固い蕾が花そう内で別れた時期	-3.5℃
B	蕾の先端がピンクのとき	-2.8℃
C	蕾が白色になったとき	-2.2℃
D	開花直前	-1.9℃
E	満開期～幼果期(落花後10日程度)	-1.7℃

**【多目的防災網の早期展張】**

雹害、霜害対策のため、多目的防災網は早めに展張しましょう。

- 多目的防災網の防雹効果
  - ・網目9mm以下で防雹効果が高く、また防鳥・防蛾も兼ねる。
- 多目的防災網の防霜効果
  - ・網目9mmで約0.5℃。それより細かい網目では0.5～1.0℃の昇温効果がある。
  - ・-2℃程度の低温であれば被害を軽減できる。
  - ・空気の循環を良くするため必ずサイドは開けておく（閉めておくと逆効果）。

**○病害虫情報** （茨城県病害虫防除所 平成19年2月28日発表の病害虫発生予報より）

**【黒星病の発生予報】**

発生時期	発生量	発生地域
早い	平年並み	県下全域

病害虫防除所の調査では、ナシ黒星病の発生量は平年並みで発生時期は平年より早くなるものと予想されています。防除時期が遅れないよう、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて防除を行いましょう。

**【果樹カメムシ類の発生予報】**

発生時期	発生量	発生地域
—	少ない	県下全域

病害虫防除所、園芸研究所の調査によると、チャバネアオカメムシの越冬量は平年に比べ少ない状況です。今後の発生情報に注意して防除を行いましょう。

**チャバネアオカメムシの越冬量（調査時期：2月 落葉30%当たりの虫数）**

地域	地点数	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	平均値
県北	21	1.7	1.6	0.2	22.4	0.3	3.6	0.1	0.1	21.7	0.1	5.2
鹿行	9	0.7	0.6	0.2	2.7	0.0	0.7	0.0	0.1	1.8	0.0	0.7
県南	6	2.3	3.6	0.0	1.7	0.5	0.3	0.8	0.0	0.5	0.2	1.3
県西	3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.5
全県	39	1.3	1.5	0.2	12.2	0.3	2.3	0.2	0.1	13.1	0.1	3.2
全県の越冬地点率(%)		55	37	11	75	22	48	10	7	74	10	—



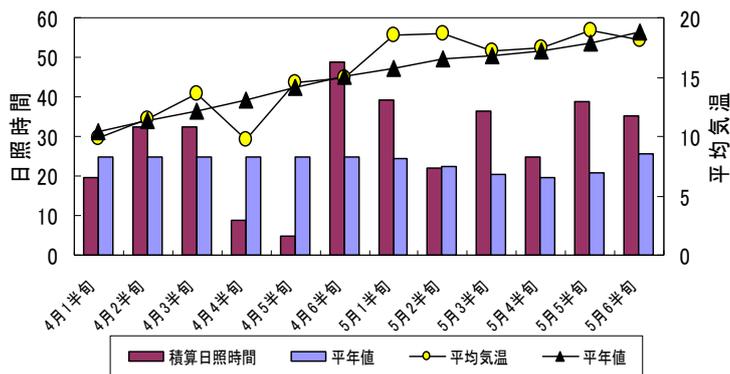
# きになる梨情報



第24号 平成19年6月13日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8517

半月別気象経過(土浦アメダス)



## ナシの生育

今年の土浦管内のナシの開花は、平年より1日早い4月20日でした。開花期前後の低温や雨天の日が続いたため、ダラダラとした開花となり、着果不良やばらつきが生じた園が見られました。その後平年を上回る気温で推移しているものの生育は1日程度の遅れとなっているようです。

ナシの肥大状況 (調査地点: かすみがうら市新治)

(単位:mm)

満開後日数	30日	40日	50日	60日	70日	80日	90日
幸水	22.3	27.9	33.1				
(平年)	22.3	28.8	33.0	37.7	43.7	52.8	64.0
豊水	19.7	25.7	29.6				
(平年)	20.1	26.0	30.7	34.9	39.3	45.7	54.2

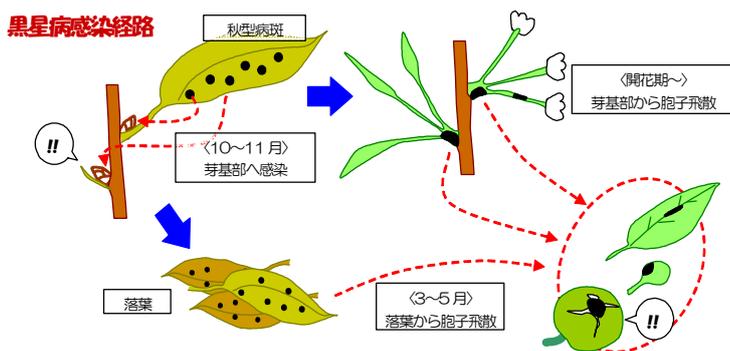
## 病害虫の発生と防除

### ◎黒星病

病害虫防除所の発生予報では平年並からやや多めの発生が予想されています。

普及センター管内においても、平年より多い発生が見られています。

発生が多い園では以下の点に注意し防除を徹底して下さい。



- ①発病した果そう基部、葉及び果実は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める。その後、防除暦に基づき薬剤防除を行う。
- ②薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安にする。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ③薬剤耐性菌の出現を回避するため、DMI (EBI) 剤の年間使用回数は原則 3 回以内に抑えることが望ましい。発生が多い園では、発病芽・葉・果を早めに取り除き、防除を徹底しましょう。

## ◎ナシヒメシンクイ

病害虫防除所の発生予報では、フェロモントラップ（笠間市）への誘殺数が、4月のピーク時は平年よりやや多かったことなどから、平年並からやや多めの発生が予想されています。第1回成虫は4月下～5月上旬にあらわれてモモやウメに移動します。7～8月に発生が多くなります。

ナシでは第2世代以後の幼虫の加害が主です。果梗付近や底部のくぼみに1卵ずつ産卵し、幼虫は最初果皮下を食害し、その後、果心部を食害します。

今後、以下の点に注意して防除を行って下さい。



モモの新梢での被害

- ① 今後は次世代成虫が発生するため、園を良く観察し適期防除に努める。
- ② 薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安にする。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

## 今後の管理

### ◎補正摘果

満開後 60～75 日までに補正摘果し、M 級以下の果実は落とすようにしましょう。早期摘果に努め、大玉生産を目指しましょう。

### 幼果期の果実の大きさと収穫期の果実の大きさの関係

(単位：mm)

満開後日数	幸水収穫果実				
	28 玉 (3L) 91.2mm	32 玉 (2L) 87.2mm	36 玉 (L) 84.0mm	40 玉 (M) 81.5mm	44 玉 (S) 79.5mm
40 日		27.6	26.5	25.4	24.7
50 日	33.7	32.1	30.8	29.8	29.0
60 日	38.4	36.5	35.1	34.0	33.1
70 日	44.6	42.3	40.4	39.0	37.9
80 日	53.9	50.9	48.5	46.6	45.1
90 日	64.8	61.4	58.7	56.5	54.8

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。

みんなで進めよう  
**茨城農業改革**

# きになる梨情報



第25号 平成19年7月11日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8517

## 収穫日が早くなると予想されます

### 梨の生育状況

今年の幸水の満開日は4月20日から23日で、昨年より1～2日程度遅く平年より、2日早い開花となりました。

各産地での見回り会の結果では、着果数は例年と比較して並～やや少なめ、果実肥大は並～やや大きめで、生育は葉色がやや淡く、葉に黒星病の病斑が認められる園がありました。また、降雹被害を受けた一部の地域では、傷果が残っていた他、被害が甚大だった園では果実肥大の遅れが認められました。

今年は開花後の気温が比較的高温で推移したことから収穫日も早くなると予想されます。着果過多や小玉の多い園では十分な肥大をしないまま収穫期を迎える恐れがあります。下の表を参考に摘果を行いましょう。

#### 露地幸水摘果基準

m/m

満開後日数	幸水収穫果実			
	32玉 (2L)	36玉 (L)	40玉 (M)	44玉 (S)
80日	50.9	48.5	46.6	45.1
85日	56.2	53.6	51.6	50.0
90日	61.4	58.7	56.5	54.8
95日	66.8	64.1	62.0	60.4
100日	72.1	69.5	67.5	65.9

### これからの病害虫対策

#### ○黒星病○

ナシ黒星病の発生に対して県病害虫防除所から注意報が発令されています。梅雨中は黒星病の発生に好条件であり、果実感染を防ぐため、梅雨明け間際（7月中旬頃）の防除を徹底しましょう。

#### ○ダニ類○

現在下草に生息しています。草刈りや除草剤の散布により樹に昇ってきます。特に、高温乾燥・過繁茂で多発しますので注意しましょう。

みんなで進めよう  
茨城農業改革



茨城農業改革！！ 消費者と手をつなぐ元気ある農業を目指して

# きになる梨情報



第26号 平成19年10月12日 土浦地域農業改良普及センター発行

Tel: 029-822-8517

## 黒星病防除の徹底を！

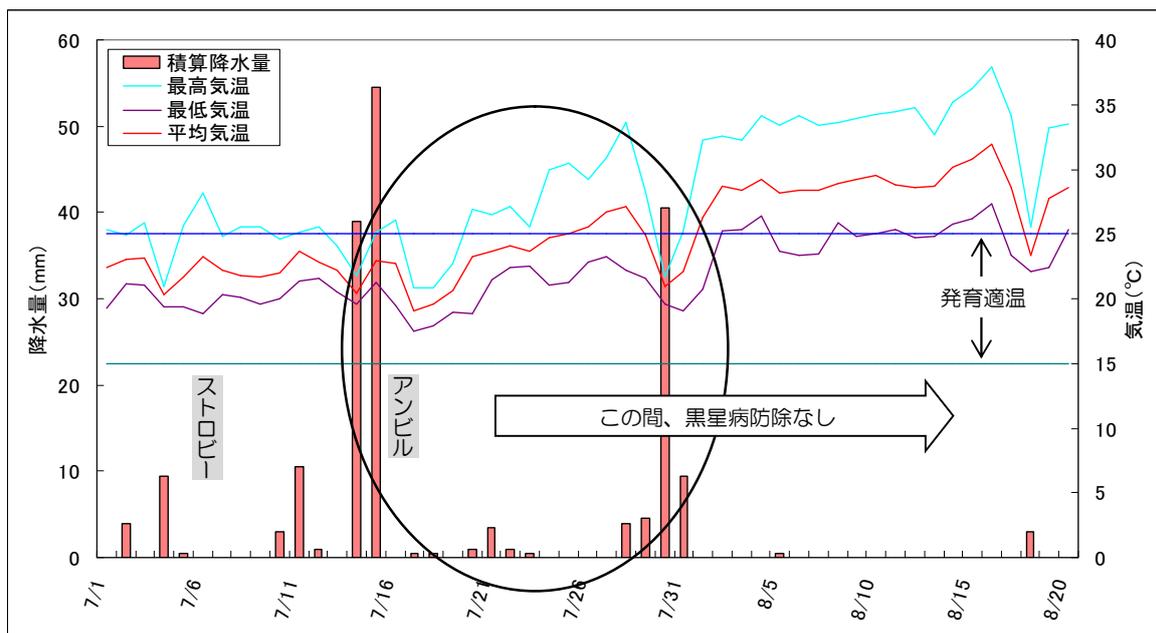
本年は、全県的に黒星病が多発し、管内でも収穫期まで発生が見られました。  
来年の感染源を減らすため、秋季防除を徹底しましょう。

### 1. 収穫期に多発した要因

本年の黒星病は、収穫期に多発したことが特徴でした。  
主な要因として考えられることは…

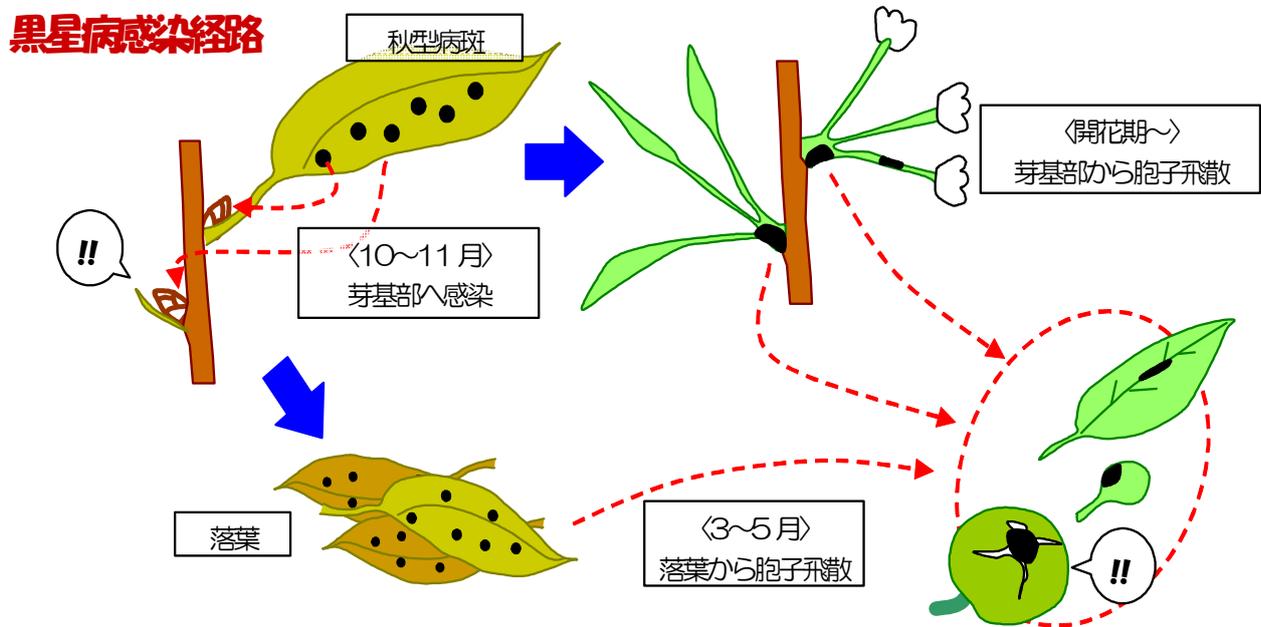
- ①梅雨明けが遅れ、7月中旬以降も降雨が多かった  
(7月中下旬の21日間で、降雨があったのは14日)
- ②病害虫防除暦に準じて農薬散布した場合、収穫前の黒星病の防除が7月中旬で終了するため、農薬の効果が梅雨明けまで持続しなかった
- ③7月中下旬の気温が、黒星病菌の発病に適した気温であった

7月中下旬に感染した黒星病菌が、潜伏期間を経て、収穫期に発病したものと考えられます。



## 2.黒星病菌の生態

- 【多発時期】 4月下旬～8月  
【伝染源】 落葉、りん片上の病斑  
【発病適温】 15～25℃（菌糸の発育適温：20℃、分生子の発芽適温：22℃）



- ・感染しやすい時期は、満開 40 日後と 75～90 日後の頃。
- ・潜伏期間は、15～20℃で 10～20 日。
- ・夏から秋にかけて、葉裏にうっすらとすすをつけた病斑を点々と生じる（秋病斑）。秋の発病が多いと、翌年の伝染源が多くなる。
- ・晩冬になると、落葉の裏面上に黒い小粒子（子嚢のう殻）が見られ、この中に多数の子のう胞子が形成される。子のう胞子は、開花約 2 週間前ころの降雨時から飛散し始め、満開期直後の頃に、飛散の最盛期となる。

## 3.防除のポイント

春先の第一次伝染源は、落葉上に形成される子のう胞子とりん片病斑上に形成される分生子です。落葉処理を徹底するとともに、防除の際は芽基部に薬液が十分かかるようにしましょう。防除は、落葉 1 ヶ月前から、オキシラン水和剤などの保護剤を 2～3 回散布してください。降雨が続いたり、発生が多かった園では、11 月上旬の落葉前まで防除を行ってください。

### 農薬を使用する際は…

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。（薬剤使用回数のカウントは収穫後から開始されますので、秋季防除での薬剤散布は次作の使用回数にカウントします）

# きになる梨情報

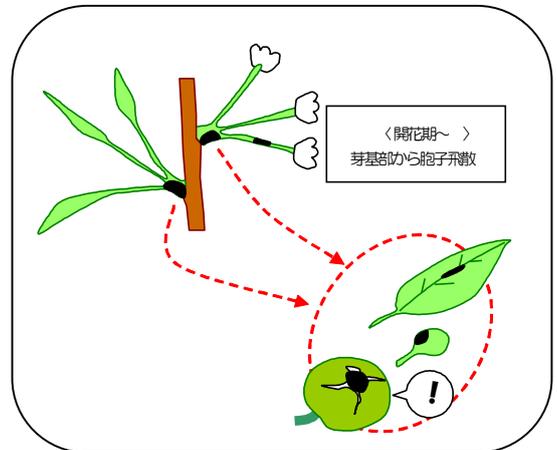
第27号 平成20年 5月20日  
土浦地域農業改良普及センター発行  
8517

## 黒星病が発生しています！

本年はナシに降雨があったため、今後、葉や果実への伝染が心配されます。例年より入念な防除対策を行って下さい。

### 黒星病の発生条件

- 【多発時期】4月下旬～8月
- 【伝染源】落葉、りん片上の病斑
- 【発病適温】15～25℃（適温は20℃）
- ・感染しやすい時期は、開花直後～40日後と75～90日後の頃
- ・感染から発病までの潜伏期間は、15～20℃で10～20日
- ・降雨等によって感染が助長される



本病は降雨により発生が助長されるため、梅雨入り前の5月に、ほ場の発病状況に応じた防除を徹底して、発生を抑えましょう。

### 防除対策

- ①発病した果そう基部、葉及び果実を除去し園外に持ち出し、参考防除例（防除暦）を参考に、防除を確実に行って下さい。
- ②薬剤散布は、10a 当たり 300 ㍓を目安に、かけむらのないよう丁寧に行ってください。
- ③薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行いましょう。
- ④現在発病が多い圃場では、発病した果そう基部、葉及び果実を除去し園外に持ち出し、表を参考に、参考防除例（防除暦）に追加して散布して下さい。

表 ナシ黒星病に登録のある主な薬剤（2008年5月18日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数	有効成分名	有効成分の総使用回数
ベルクトフロアブル	1,500	14	4	ミノクタジン	5(但し塗布剤は2、液剤は1)
ユニクス顆粒水和剤47	2,000	21	3	シプロジニル	3
スコア顆粒水和剤(DMI)	4,000	14	3	ジフェノコザール	3
インダゴフロアブル(DMI)	5,000～12,000	7	3	フェンブコザール	3
アンピルフロアブル(DMI)	1,000～2,000	7	3	ヘキサコザール	3
マネージ DF(DMI)	6,000～8,000	21	3	イメベンコザール	3

なお、DMI 剤は、薬剤耐性菌の出現を回避するために、年間使用回数は原則3回以内に抑えることが望ましい。

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。

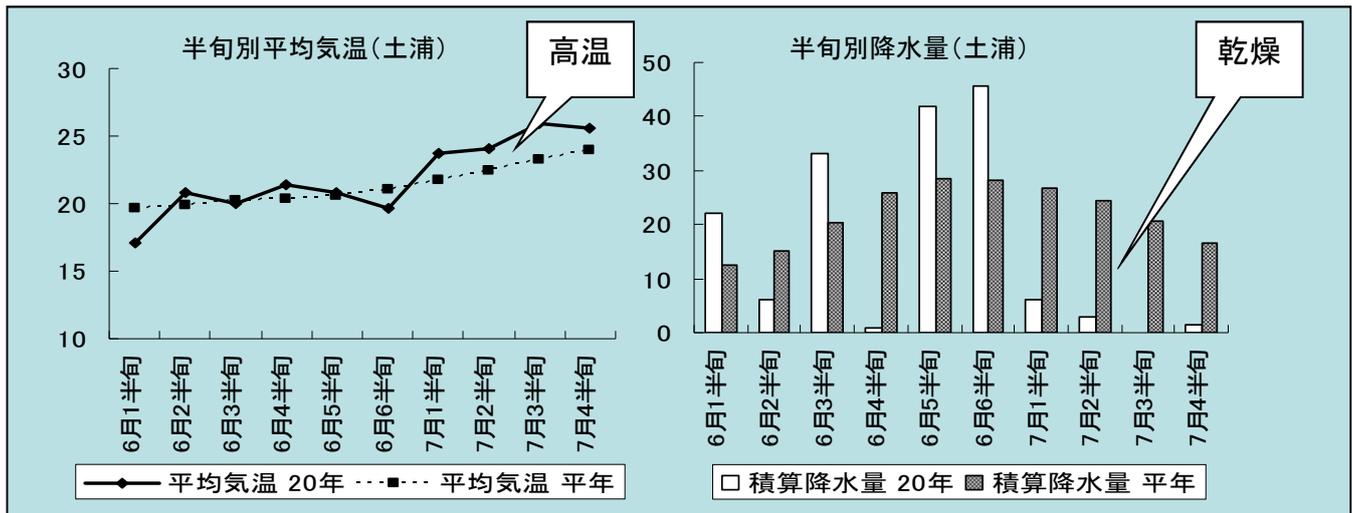
# きになる梨情報



みんなで進めよう  
茨城農業改革

第28号 平成20年7月25日 土浦地域農業改良普及センター発行  
Tel: 029-822-8517

7月に入ってから高温乾燥状態が続いています。  
高品質なナシを生産するために収穫までの管理を徹底して下さい!!



## 干ばつ対策

- かん水は、干ばつの影響が現れてから行ったのでは遅い。晴天が1週間くらい続いたら行い、以後は5~6日間隔で20~30mmを目安にかん水を行う。  
(10a当たり20,000ℓかん水すると20mmとなる)  
樹冠下への局部かん水の場合は、浅いかん水溝を掘って、1樹当たり200~300ℓを目安に行う。
- 樹冠回りを中心に草刈りや敷きわらのマルチを行い、土壌水分の保持に努める。
- 草生園は、刈り取りを励行して、果樹との水分競合を防ぐことに努める。ただし、土壌乾燥防止のため数センチ残して刈るようにする。草生園のかん水は、清耕園や敷きわら園より量を多くする必要がある。

## 病虫害対策

これから暑くなるとハダニ類の発生が多くなります。毎年発生する場所などをよく観察して、見つけたら早めに防除しましょう。農薬散布は、収穫前日数に十分注意しておこないましょう。

### ナシのハダニ類で登録があるおもな薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
カネマイトフロアブル	1,000~1,500倍	収穫前日まで	1回
コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで	1回
ダニサラバフロアブル	1,000~2,000倍	収穫前日まで	2回
マイトコーネフロアブル	1,000~1,500倍	収穫前日まで	1回

農薬の使用に際しては、必ず使用前にラベルを確認し、農薬の誤った使用を行わないようにして下さい。また、周辺作物へのドリフト(飛散)に注意し、適正に使用して下さい。

# きになる梨情報



みんなで進めよう  
茨城農業改革

第29号 平成20年10月 日 土浦地域農業改良普及センター発行

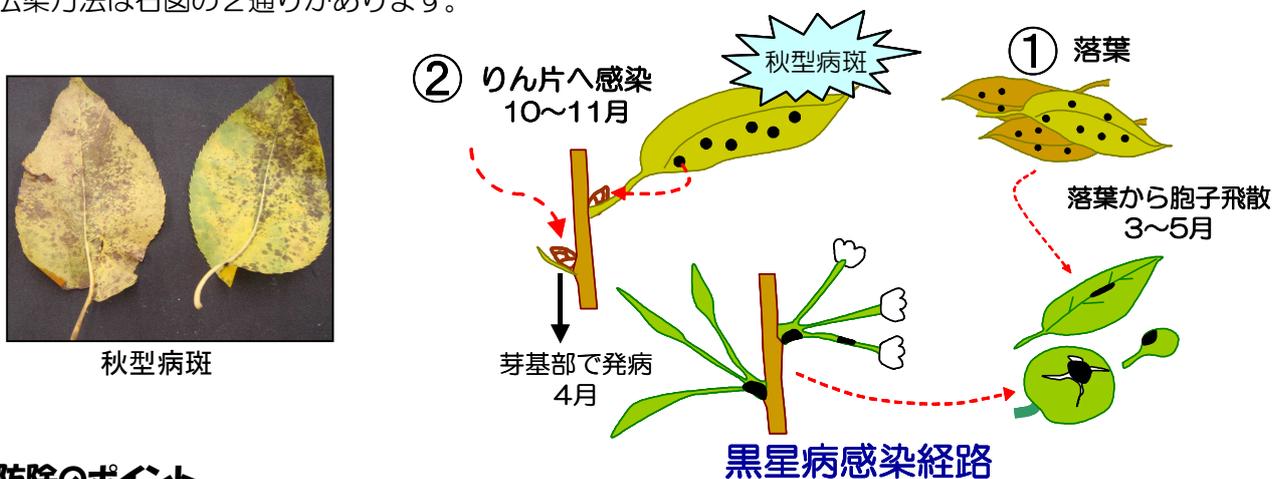
Tel: 029-822-8517

## ナシ黒星病の秋季防除について

今年は生育初期からナシの黒星病が多く発生し、防除に苦慮されたことと思います。防除の徹底と7月以降の好天により、収穫期の果実病斑は昨年より少ない傾向でした。ここで油断せず、伝染源を減らして翌年の黒星病の発生を抑えるために、秋季防除を徹底しましょう。

### 黒星病の伝染源 = 秋型病斑を生じた葉

黒星病は夏から秋にかけて葉裏に薄い墨を流したような黒色の病斑（秋型病斑）を生じます。伝染方法は右図の2通りがあります。



### 防除のポイント

#### ① 落葉の処理 **効果大!**

- 園内にある落葉を集めて園外に持ち出すか、土中深くに埋めることにより、伝染源を取り除きます。  
〔 薬剤散布だけでは、秋型病斑を生じた葉の落葉から翌春に孢子が形成・飛散するのを防ぐ 〕  
〔 効果までは期待できないので、落葉処理が最も効果的です。 〕

#### ② 薬剤の散布

- 薬剤散布により、りん片（芽）への感染を防ぎ、翌春の芽基部での発病を抑えます。
- 落葉1ヶ月前から薬剤散布を2~3回を行うとりん片への感染予防効果が高いです。雨が長く続くときは11月上旬まで防除を行います。参考防除例（防除暦）を参考に、防除を確実に行って下さい。
- 薬剤散布量は、10a当たり300リットルを目安に十分な量を丁寧に、SSの走行方向・速度を工夫してかけむらのないように努めましょう。
- 農薬は登録の確認とともに、周辺の作物に薬液が飛散しないよう十分注意して散布しましょう。



お知らせ下さい!!

県内で樹勢の低下した樹にキクイムシ類(成虫:約2mm)の発生が見られました。樹だけでなく果実の食害も確認されています。果実被害や虫をみた、という方は普及センターまでお知らせ下さい。



# きになる梨情報

第30号 平成21年 6月19日 土浦地域農業改良普及センター発行  
Tel : 029-822-8517

## 梨の生育状況

今年の幸水の満開日は、千代田地区で4月17日頃、八郷地区で4月18日頃と、平年よりも4～5日程度早い開花でした。開花期に強風や乾燥した日が多かったため、着果に一部ばらつきが見られましたが、目標着果数は十分確保できる見込みです。

6月19日現在の調査ほ場（かすみがうら市新治）におけるナシの肥大状況は、幸水で平年比106%（横径）、豊水で平年比101%（横径）といずれも平年を上回っています。

今年は、出荷も前進化が予想されることから、早めの管理を行いましょう。

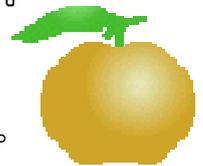


表1 6月19日現在の生育状況（満開後60日に換算）

調査地点	品種名	幸水	豊水	あきづき
千代田地区 (かすみがうら市新治)	本年（横径）	40.0mm	35.2mm	33.6mm
	平年比	106%	101%	—
	前年比	111%	106%	105%
八郷地区 (石岡市吉生)	本年（横径）	39.7mm	33.4mm	33.9mm
	平年比	103%	93%	—
	前年比	103%	99%	107%

## 病虫害情報

### 黒星病

★★ 平年よりやや多く発生しています ★★

5月28日に県病虫害防除所より発表された病虫害発生予報では、黒星病の発生量は平年よりやや多い～多いと予想されています。普及センター管内でも、園によって葉柄や果梗、果実への感染が見られています。多発状況下では、薬剤による防除だけでは完全に抑えることは困難です。発病している葉や果実、芽基部の病斑をハサミできれいに切り取り、園外に持ち出し処分して下さい。

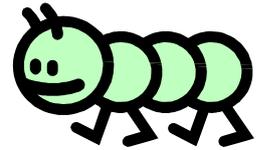
また、幸水の果実では開花期と開花後75～90日（7月上旬～中旬）が、黒星病に感染しやすい時期と言われています。6月に感染・発病が治まったと思った方も、再度ほ場をよく観察し、防除の手を緩めないよう注意しましょう。



## ナシヒメシンクイ

★★ 平年より多く発生しています ★★

6月12日に県病害虫防除所より発表された病害虫情報では、県内の予察ほ場でのフェロモントラップへのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺は平年より早く、誘殺数は平年より多いとのこと。またその誘殺パターンは、ナシへの被害が多かった平成18年と類似しており、被害を未然に防ぐためにも確実な薬剤防除を実施しましょう。



例年被害が多くなるのは7月下旬以降ですが、収穫時期の発生と被害を防ぐためには、第2世代幼虫の齢期が揃っている**6月下旬の確実な防除**を行うことが重要です。

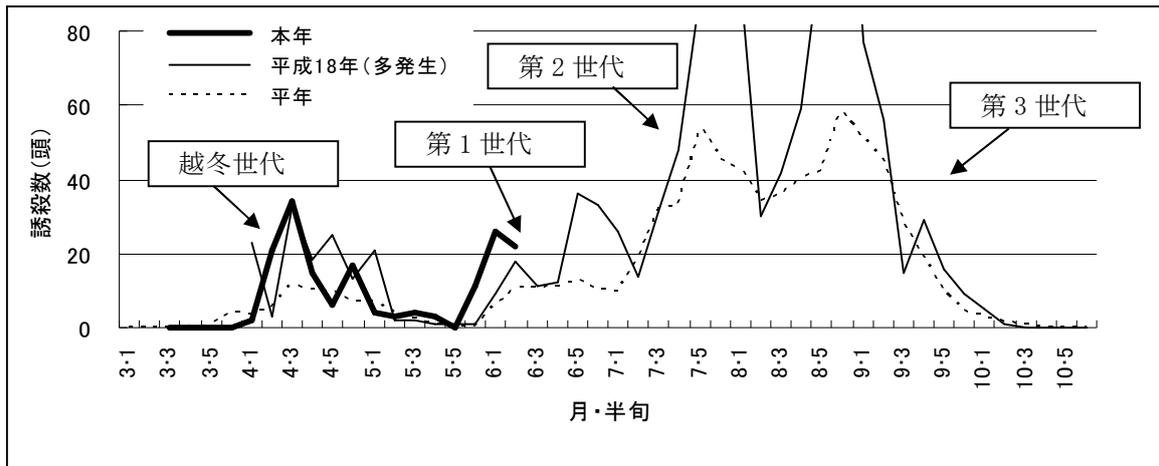


図1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイ雄成虫の発生活消長（笠間市）

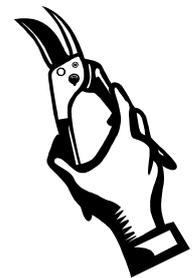
## 今後の管理

今年は平年よりも開花が4～5日早く、また開花後も比較的天候に恵まれたことから果実肥大も良く、生育は前進化しています。出荷時期が他産地と競合して価格低迷が懸念されますので、できるだけ早めに目標着果量に近づけ、大玉生産を目指しましょう。

また、薬剤散布は、収穫期が例年より早まるため、特に収穫前日数に注意して行いましょう。

表2 幼果期の果実の大きさと収穫期の果実の大きさの関係（単位：mm）

満開後日数	幸水収穫果実			
	28玉 (3L) 91.2mm	32玉 (2L) 87.2mm	36玉 (L) 84.0mm	40玉 (M) 81.5mm
60日 (6/17)	38.4	36.5	35.1	34.0
70日 (6/27)	44.6	42.3	40.4	39.0
80日 (7/7)	53.9	50.9	48.5	46.6
90日 (7/17)	64.8	61.4	58.7	56.5



\* 日付は満開日を4月18日とした場合

## 農薬を使用する際は…

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。（薬剤使用回数のカウントは収穫後から開始されますので、秋季防除での薬剤散布は次作の使用回数にカウントします）